

# みんなで守ろう 大切な命



## テーマについて

青山台こぼと幼稚園では、友達や身近な生き物とのかかわりを通して、命の大切さに気づき、自分や友達を大切にしようとする気持ちを育み、認め合い、助け合える仲間づくりを目指して取り組んでいる。今年度は特に命の大切さについて学びを深めていけるように「みんなで守ろう大切な命」と、テーマを設定し取り組んできた。日々の遊びを通して命を大切にすることを育むための環境の構成や援助について探ったり、年間を通して様々な想定避難訓練を継続したいすることで、子供たち自身が気づき、学び、考え、大切な命を守る行動につなげていきたい。阪神・淡路大震災から27年が過ぎたことにより、震災を経験していない保護者も増えてきている。幼稚園が中心となって、防災に対する知識や備えを伝える機会を設ける等、地域と家庭を結ぶ役割を担っていくことで、幼稚園と家庭、地域が連携し、幼児の命を守っていききたい。

## ねらい

- 友達や身近な生き物とのかかわりを通して、命の大切さに気づく心を育む
- 自ら感じ考えることができる避難訓練の在り方を探る
- 家庭や地域と連携し、子供の命を守るための防災教育を推進する

## 4つの視点



### 命の大切さに気づく心を育む保育実践



- 身近な生き物に触れることのできる環境作り
  - ・ダンゴムシ、ツバメ、ザリガニなど身近な生き物を飼育し、世話をする中で、生き物にかかわったり、よく知ったり、生き物に応じた世話を考えたりできる環境の工夫
  - ・生き物に触れて感じたことを先生や友達に伝えたり、身体や絵画で表現する場づくり
- 保育記録をもとにカンファレンスを行い、幼児理解を深める
- 園内環境の見直し
  - ・果樹や、季節に応じた植物を植え、生き物が育ちやすい環境を整えるなどより充実した環境の整備



### 地域との連携

- 近隣小学校との連携
  - ・警報発令時の引き取り時間確認⇒幼稚園から地域の学校への周知
  - ・近隣小学校の防災計画及び防災用貯蓄物、防災の備えについての確認
- 神戸市防災福祉コミュニティの活動内容や地域の避難場所の確認
- 学校評議委員会において防災教育の取組の周知、地域との情報交換

### 様々な想定をした避難訓練の継続

- 様々な場面を想定した避難訓練の実施
  - ・設定保育中、好きな遊び、落下物の想定、二次避難、火災、地震、不審者などの実施
- 訓練実施後の振り返りの実施
  - ・子供たち⇒訓練の振り返り、危険箇所確認
  - ・職員間 ⇒ PDCA表にまとめて次回につなげる
- 防災マニュアルの見直し
  - ・各自の役割の確認や、具体的な対応について検討
- 園内環境の見直し、保育室等の落下物確認
  - ・落下防止のフックの取り付け、用具の固定確認
  - ・防災リュックの見直し



実施日時	実施内容	実施結果	今後の対応
10/17 (水)	地震発生時の避難訓練	全園児安全に避難完了	避難経路の確認
10/20 (土)	落下物想定避難訓練	落下物の確認が徹底された	落下防止フックの取り付け
10/23 (火)	火災発生時の避難訓練	避難時間が短縮された	避難経路の再確認
10/26 (金)	不審者発生時の避難訓練	園児の反応が良かった	保護者への啓発



### 保護者への啓発

- 防災アンケート実施
  - ・各家庭での防災についての備えについて、防災時の避難場所や、連絡方法について
  - ・防災について不安や疑問点などについて
- 避難訓練での育ちの経過を共有
  - ・保護者会やHPでの発信
- 地震体験車(ゆれるん)の親子体験
- 阪神・淡路大震災の教訓と今後に生かす対策についての周知
  - ・講師による講演会の実施
- 家庭で備えるべき防災についての情報提供
- 各家庭保存版防災ファイルの作成・配布



ほくと家族の大切な命

## 防災リュック見直し

防災リュックの中身が多く、重すぎて運べない!!



物が多すぎる

特に重たい懐中電灯等を減らす



- 懐中電灯
- 除菌シート
- おしぼり
- ティッシュ
- 新聞紙
- 着替え
- ラップ
- 軍手

減らした荷物はカートに収納

# 児童の災害対応能力の向上を目指した防災教育カリキュラムの開発

神戸市立灘の浜小学校



## 研究の目的

頻発する自然災害を受けて、学校教育における防災教育への期待が高まっている。新学習指導要領では、各教科において防災に関連した内容が策定されている。しかし、阿部・志村(2020)では、防災教育実践の多くは教師の避難誘導を中心とした防災指導や取り扱われる災害が地域特性とは異なる防災学習であることを指摘するとともに、多くの教員が防災教育を災害発生後の対処的なものと捉えていることも指摘している。新型コロナウイルス感染症等、複合災害が懸念される現状において、教師が一般的な災害対応を指導するだけでは児童の災害対応能力の向上には不十分であり、教科教育からのアプローチを充実させ、他者と納得解を創造する学習過程を重視した学習展開において児童の災害対応能力の向上を図る防災教育の充実が急務の課題である。

そこで本研究では、これら防災教育の抱える課題を解決するために、本校のカリキュラムマネジメントを防災教育でデザインすることを目的とした。具体的には、防災教育のねらいを具現化するためのアプローチを全教科に位置付けた実践を蓄積することに力点を置いた。

## 研究の方法

本年度、本校では防災教育の充実を目指し、実践と理論の両面からアプローチを行った。

### ①実践的アプローチ

指導計画の立案・作成を低学年・中学年・高学年グループに分けて行った。指導案は職員で共有するとともに、参観及び事後検討会も多くの教員が参加することができる体制で行った。

### ②理論的アプローチ

#### A 授業力向上研修会の実施

理科を事例とし、アーギュメントの教授方略を4年理科「雨水の行方と土地の様子」の単元を用いて校内研修を行った。

#### イ 研修を基にしたマニュアルの更新

兵庫県立大学浦川准教授のご助言を基に、年度初めに設定した本校の防災マニュアルの見直しを行った。

## 防災教育の実践

### 【授業準備段階】

#### ①授業カテゴリーの設定

#### A1 災害を学習内容として取り扱い、

そこに防災の視点をもったねらいを定めた授業

⇒ 理科「水害を防ぐ」「防災対策を立てる」など、学習内容で災害を扱う授業

#### A2 災害を直接的に扱わないが

学習内容に防災の視点をもったねらいを定めた授業

⇒ 直接災害事例を扱わず、自身の健康・安全につながる学習内容の授業  
例 身の回りの整理整頓・歯の健康等

#### B 学習方法に防災の視点をもったねらいを定めた授業

⇒ 身に付けた力が、災害時などに生きてはたらく力の育成へとつながる授業  
例 練り上げる過程・適切性を吟味する過程等

#### ②防災授業研修（教科からのアプローチ）

単元 4年生 急な川の増水を防げ！



学習目標 1「急な増水は中水涵のそばまでコンクリートボールを平らにすることが出来ること」  
学習目標 2「急いでも自分から避難の準備を促さなくてはならないことを理解し、準備出来ること」

単元例 4年生「雨水の行方と地面の様子」



4年生「雨水の行方と地面の様子」の単元を、教科教育の視点から防災教育へのアプローチを行う事例として本研究の方向性の確認及び、各教科からのアプローチの方法について議論を行った。

#### ③低学年グループ～災害時に生きて働く力の育成～

児童自身の状況、思い、願いなどが伝えられるような、災害時に働く言語能力の習得・向上を目指す。



1年国語

しらせたいな、見せたいな  
自分の思いを伝える



2年算数

長方形と正方形  
相手の考えを聞く



2年国語

まとまりに分けてお話を考え、  
「三枚紙しばい」を書こう  
相手の考えを聞く

#### ④中学年グループ～防災・減災の技能の向上～

理科の学びを生かして災害時、避難生活時に起こる諸問題の解決を図り、防災・減災の技能の向上を目指す。



3年理科：電気の通り道

「防災懐中電灯をつくろう！」  
用途に応じた回路を作る



4年理科：ものあたたまり方

「避難所を効率よくあたためよう！」  
空気のあたたまり方を理解し、  
対流を促進する

#### ⑤高学年グループ

～自分たちが今できる防災活動について考える～



5年総合

「伝えようみんな目指すSDGs」  
社会参画を行う  
資質・能力を養う



6年総合

「野島断層見学」  
自分たちの命を  
守ることについて考える



6年図画工作科

「灘の浜ドリーム・プロジェクト」  
～わたしが住みたい町～  
地域社会の一員としての  
意識を高める

#### ⑥防災カリキュラムの作成

学年	4年生	5年生	6年生
1	防災教育 年間指導計画		
2	防災教育 年間指導計画		
3	防災教育 年間指導計画		
4	防災教育 年間指導計画		
5	防災教育 年間指導計画		
6	防災教育 年間指導計画		
7	防災教育 年間指導計画		
8	防災教育 年間指導計画		
9	防災教育 年間指導計画		
10	防災教育 年間指導計画		
11	防災教育 年間指導計画		
12	防災教育 年間指導計画		
13	防災教育 年間指導計画		
14	防災教育 年間指導計画		
15	防災教育 年間指導計画		
16	防災教育 年間指導計画		
17	防災教育 年間指導計画		
18	防災教育 年間指導計画		
19	防災教育 年間指導計画		
20	防災教育 年間指導計画		
21	防災教育 年間指導計画		
22	防災教育 年間指導計画		
23	防災教育 年間指導計画		
24	防災教育 年間指導計画		
25	防災教育 年間指導計画		
26	防災教育 年間指導計画		
27	防災教育 年間指導計画		
28	防災教育 年間指導計画		
29	防災教育 年間指導計画		
30	防災教育 年間指導計画		
31	防災教育 年間指導計画		
32	防災教育 年間指導計画		
33	防災教育 年間指導計画		
34	防災教育 年間指導計画		
35	防災教育 年間指導計画		
36	防災教育 年間指導計画		
37	防災教育 年間指導計画		
38	防災教育 年間指導計画		
39	防災教育 年間指導計画		
40	防災教育 年間指導計画		
41	防災教育 年間指導計画		
42	防災教育 年間指導計画		
43	防災教育 年間指導計画		
44	防災教育 年間指導計画		
45	防災教育 年間指導計画		
46	防災教育 年間指導計画		
47	防災教育 年間指導計画		
48	防災教育 年間指導計画		
49	防災教育 年間指導計画		
50	防災教育 年間指導計画		

2021年度の防災授業実績を基に、本校の防災カリキュラムに教科教育の内容を加筆し、修正案を作成した。来年度以降も本年度の授業カテゴリーの考え方を踏襲し、教科教育の充実によって、本校の防災教育カリキュラムの更新を行っていく。

# 守ろう！大切な命

## ～地域・保護者・関係機関と連携した防災教育の推進～

神戸市立真陽小学校

### 実践のねらい

真陽小学校の児童は、普段から週に一度、お昼の放送で行われる「防災放送」や、毎月発行される「ぼうさいタイムズ」などで防災の情報に触れているため、防災に対する意識は比較的高いように感じる。ただ、震災後 27 年ということで、震災の経験がないか、または小さい頃のことであまり記憶していないという保護者が増えており、家庭で震災について子供に語り伝えるということが少なくなっている現況である。

近年、地震以外にも津波や大雨による土砂災害や洪水といった自然災害に対する防災についても正しい知識や対応・準備が必要となっている。その地域の特徴に応じた多様な備えが必要となっている現状を考えると、学校が、年間を通して計画的に防災学習を進めることだけで地域の防災力を高めることは難しい。防災意識の高い地域や関係機関の力を生かし、協力しながら防災学習を進めていくことが不可欠である。

そこで、地域・保護者・関係機関と連携しながら防災学習を進め、子供たちが正しい知識を身につけ、災害が起こった時に、自分の命を守れるように、そして、地域が大切にしてきた震災への思いや取組を見つめ直し、みんなで命を守る意識を高められるようにと主題を設定した。

### 防災学習

各学年で学習する内容を決めて、系統立てて防災学習ができるようにしている。

- 1年生「さいがいに まけないぞ」
  - 2年生「避難リュックを作ろう」
  - 3年生「水がでない どうしたらいいの」
  - 4年生「ライフラインが使えなくなったら」
  - 5年生「自然災害から自分を守る・家族を守る・人々を守る」
  - 6年生「クロスロードゲーム」
- なかよし「にげて にげて つなみがくるよ」



### 体験訓練

低学年は煙の中を身をかがめて進む煙体験訓練。中学年は、河川の増水をせき止める土嚢を作る体験訓練、高学年は、井戸水をバケツに汲み、それをバケツリレーで素早く運ぶ訓練を行った。今年度は体験訓練のオープニングに長田警察署主催の災害時の救出劇を全校生で見た。

### 防災集会・追悼集会

防災集会、追悼集会には、全校生のほか、保護者や地域の方も一緒に参加して行った。新型コロナウイルス感染症対策のため、4年生以外は教室でのテレビ放送で参加した。防災集会では、防災福祉コミュニティの方から震災当時の話を聞いた。震災当時の具体的な話を聞き、災害の恐ろしさを感じた。そして、防災クイズを行い、災害時の服装や避難場所について楽しく学習した。追悼集会では、校長先生の話を聞き、亡くなった方々へのご冥福をお祈りする黙禱をした。最後に、全員で「しあわせ運べるように」を心の中で歌った。4年生は5年生から毎年教えてもらっている手話で、「しあわせ運べるように」を歌った。



### 避難訓練・引渡し訓練

地震の避難訓練で運動場に集合したあと、津波を想定して水笠通公園まで水平避難訓練をした。年度によって学年2列で歩いたり、1・6年、2・4年、3・5年のペアで避難したりして、よりよい方法を考えながら行っている。この訓練の際にも防災福祉コミュニティの方と連携しながら避難をした。

津波発生時の避難場所で子供を引き渡す訓練をしておくことは意義があると感じている。



### 校内放送を利用した防災教育

放送委員会児童と関西大学が連携し、毎週月曜日のお昼の放送（給食時）で「防災放送」を行っていることも本校の特色の一つである。この活動は 2014 年からスタートして今年で 8 年目を迎えた。地震や火災に限らず、様々な防災や防犯に関する大切な知識を繰り返し伝えている。伝える内容は同じことでも、1年生から6年生までの児童が興味をもって聞くことができるように工夫している。防災クイズや防災ドラマ、委員会の児童が子供たちに人気のアニメをモチーフになぞ解きをしながら防災知識を紹介するなどがその例である。これらの放送のアイデアは、児童と大学生が、委員会活動の時間に話し合っ

て決めている。また、防災放送で伝えたことをまとめた「ぼうさいタイムズ」を大学生が作成し、全家庭に月1回配付している。学校だけでなく、家庭でも防災について話し合う機会がもてるようにという願いをこめて「ぼうさいタイムズ」の発行が始まった。

「防災放送」と「ぼうさいタイムズ」は、子供たちの防災意識の高まりだけでなく、保護者や地域との防災に関する連携を強くすることもできると考えている。今後も継続し、真陽の防災力アップにつなげていきたい。

# 真陽防災の日

# 地域の教材化や地域人材の活用で

## 防災意識の高い子供をめざして

本校は北区の中でも最も北に位置しています。周囲は田園風景が広がり、そばには有馬川が流れていて、夏にはそこで川の生き物を探することができます。しかし、ハザードマップでは浸水の危険性が高い地域として指定されています。このような立地条件に関わらず、水害に対する防災教育が十分に行われてこなかったため、防災意識を高められるように地域を教材として取り上げる学習を理科や社会科、総合的な学習などで行うように防災教育を見直しました。地域を教材化することや地域の人材を活用することで、学びが自分事としてとらえられ、子供たちは学習に切実感と必要性を感じる事ができました。



### 「避難訓練の工夫」

- ・大雨災害を想定した防災マニュアルの見直し
- ・河川の氾濫を想定した垂直訓練の実施
- ・様々な状況を想定した避難訓練の実施
- ・今後ますます増えるであろう大雨への備え



### 「防災教育の充実」

- ・地域の教材化（有馬川）
- ・防災教育年間カリキュラムの見直し  
（4年社会科 「自然災害に備えて」）  
（5年理科 「台風と気象情報」）  
（4・5年総合 「防災プロジェクト」）
- ・1・17のつどい防災福祉コミュニティの  
講話・防災学習
- ・SDGsにおける気候変動（異常気象）の  
学習の充実

### 「地域人材の活用」

- ・神戸土木事務所（5年総合 防災プロジェクト【水害】）
- ・K I I T O（4年総合 防災プロジェクト【水害】）
- ・道場防災福祉コミュニティ
- ・神戸人材バンクの活用（神戸地方気象台）



### 成果

- 本校近くを流れる有馬川のように、地域の中から防災教育で使えるものを取り上げることで子供たちに学習の切実感と必要性をもたせることができた。
- 地域や外部の講師を積極的に活用することで、子供たちの興味・関心がより高まり意欲的な学習活動につながる事ができた。

### 課題

- 4年と5年の社会科で自然災害の単元があるので、両学年の総合的な学習でも自然災害をテーマにしたが、どのような違いをもたせるのか苦慮した。
- 開発した地域教材や外部（地域）の人材をこれからも活用していくためには、使った資料を整理して保存したり、人材バンクとして名前や連絡先などを蓄積したりすることが必要だと感じた。



# 人々との交流を通して「共助」の力を養う

～胸を張り 響き合い 夢に向かう～

学校目標 - 3つの柱 -

震災から27年が経ち、神戸市での防災体制・防災教育の効果が定着し、本校でも避難訓練や震災の日には一人一人の児童が「自分の命を守る」という目的をもって、俊敏に動くことができるようになってきている。このような「自助」の学習は身につけ、今後も防災教育の一環として大切にしたい一つである。そこで、今後は、震災で被害にあった人々の生き方・考え方や復興に向けて努力している人々に焦点を当てることで、交流をすることで、「共助」の学習を展開したいと考えている。他地域との触れ合いが少ない本校の児童にとって、防災を中心とした交流学習は大きな意味をもたらせると期待している。

自助  
から  
共助  
へ

## 胸を張る～たくましい子～

○ねらい「命の大切さや有難さを感じ、自他の命や人権を尊重できる。人に優しく温かい心を育む。」

- ・避難訓練（全校）
- ・防災グッズを活用した防災学習（低学年）
  - ①避難リュックの作成
  - ②自然災害サバイバル
  - ③防災学習かるた



※命を守るために、どのような行動をとれば良いか避難訓練を通して考え、防災グッズを活用して、命を守る手段を学習した。



## 響き合い～心やさしい子～

○ねらい「困難な状況に出会った時にもしっかりと判断して行動し（自助）、協力して困難を乗り越える力（共助）を育む。」

- ・防災体験プログラム（中学年）
  - ①地震体験
  - ②VR 土砂災害体験
  - ③耐震学習



※体験プログラムを通して、被害の大きさを身をもって体感し、震災や防災について、学びを深めた。



## 夢に向かう～自ら学ぶ子～

○ねらい「震災当時の人々と今を生きる人々の生き方や復興の様子を学ぶことで家族、学校、地域等、自分に関わる環境をより良くして、今や未来を明るく、たくましく生きたいという心を育む。」

- ・東日本大震災被災地交流（6年生）
  - ①東日本大震災・原子力災害伝承館
  - ②福島県樽葉町立樽葉南北小学校
- ・校外学習「北淡 震災記念公園」（高学年）
- ・校外学習「震災メモリアルパーク・神戸新聞社」（5年生）



※実物を見たり、被災地の方と交流をして話を聞いたりする中で、学校や家、地域で自分には、何ができるのか考える姿が見られた。

### 成果と課題

- ・共助への意識  
揺れを体験したり被災した方から話聞いたりした中で、共助への意識が高まった。
- ・防災意識の高まり  
校外学習や地震体験学習では、目で見たり身体で体験したりすることで、子供達の防災への意識や知識が高まり深い学びにつながった。また、防災グッズを購入して取り入れたことで、低学年児童も学びやすい環境が整い、学校全体の防災意識が高まった。
- ・避難訓練の工夫  
来年はより実際のシチュエーションに近い避難訓練を取り入れることで、避難訓練をより良いものにしたい。  
→来年度以降も今年のカリキュラムや交流も継続したい。

### 職員研修

- 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 森永速男教授による講話
- 東北地方被災地視察  
→①原子力災害伝承館との打ち合わせと見学  
②福島県樽葉町立樽葉南小学校 横山雄彦校長先生との交流  
③請戸小学校、大川小学校視察  
④南三陸町防災庁舎視察

# 地域と連携した防災教育の推進 (令和3年度)

神戸市立渚中学校

## 1. 実践のねらい

本校は震災後、「神戸市復興計画」の1つとして「HAT神戸」に開校された。この開校の精神を再認識して、7年前から地域住民と共に防災、減災について考える取り組みを行ってきた。昨年度に引き続き今年度もコロナ禍でできることを考え、防災ジュニアリーダーの活動を中心に特色ある活動を推進しようと取り組んだ。

## 2. 実践の内容

### 【1】防災ジュニアリーダーの活動

学校の防災行事の企画運営・防災訓練のボランティア活動、地域との交流活動を中心に活動した。今年度は14名の防災ジュニアリーダーが活動に参加した。

#### (1) 防災講話(7月)

「命を守るための自己判断力」というテーマで、神戸市中央消防署前林大和氏よりお話をきいた。

#### (2) 夏休みの活動(8月)

- ①地域の方と「HAT神戸」内の防災施設を確認した。
- ②防災に関する動画を作成した。
- ③「HAT神戸減災セミナー」にて作成した動画を発表した。

#### (3) 神戸市消防局主催「神戸防災のつどい2022 次世代を担う若者による防災を考える集い」に参加(1月)

### 【2】防災オリンピックの開催

2年生を対象にトライやるウィークの一環として以下の活動をおこなった。

#### (1) 地域の防災に関わる各方面のプロフェッショナルの方々から講話を聞き、具体的実習をおこなった。

<協力していただいたプロフェッショナル>

自衛隊兵庫地方協力本部・国土交通省・防災ミュージシャン「Bloom Works」・気象庁  
兵庫県栄養士会・神戸市消防局・被災地NGO協働センター・看護師・災害医療センター  
市民救命士・多言語センターFACIL・兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授  
なぎさ防災福祉コミュニティ

#### (2) 掲示物・ピクトグラムを作成した。

#### (3) 防災オリンピックを開催した。

クイズ形式で地震・火災・津波・洪水などに関する知識や救急手当てに関する実践力を競った。

#### (4) 地域の防災体制を学ぶために校区内街歩きをおこなった。



防災講話



動画作成



防災を考える集い



カリヨンの鐘



防災オリンピック



防災オリンピック

### 【3】「1.17総合防災・減災学習の日」(1月)

#### (1) 放送による全校集会

#### (2) 「加藤りつこさん講演会」(リモート)

阪神・淡路大震災でなくなられた息子さんの一通の手紙から伝えられた生きる力や多くの方々との大切な出会いについて話を聞いた。

#### (3) 「ひょうご安全の日 1.17 のつどい」に参加(防災ジュニアリーダー)、中学生代表のメッセージ披露 カリヨンの鐘を鳴らした。

#### (4) 危険予測の事前学習と避難訓練

#### (5) 各学年でのテーマ別学習

1年 防災ゲーム「なまずの学校」 2年 クロスロード 3年 避難所運営ゲーム(HUG)



講演会



講演会



希望の灯り分灯



避難訓練の様子



全校集会



1年 「なまずの学校」



2年 「クロスロード」



3年 「HUG」

# ハザードマップや新聞作成による 防災学習(令和3年度)

神戸市立有野北中学校

～令和3年9月～令和4年1月に実施された1・2年生(20・21回生)の取り組み～

## 【1】1年生の取り組み

### 北淡記念公園への校外学習

「しあわせ運ぼう」で事前学習をしたあと、淡路の「北淡震災公園」へ校外学習をしました。阪神淡路大震災を経験していない世代ですが、展示物や、野島断層に食い入るように見ていました。



### テーマを決めて新聞づくり

地震の中から二つのテーマを選び、班でテーマを持ち寄って討議しました。その中から主だったところを地震に関する新聞を各班で作成し、発表会をしました。様々な切り口から地震について調べ学習をしてお互いに地震に対する知識を深め、防災の必要性を実感することができました。



## 【2】2年生の取り組み

### 事前学習

事前にワードを使ってのマップ作りの方法やフィールドワークの手法について学習しました。



### トライやる・ウィーク ハザードマップ作り

11月8日～10日の3日間を使って、それぞれ資料集め、資料整理とマップ作製、発表会へ向けての練習をしました。



### トライやる・ウィーク発表会

## 【2】取り組みの成果と生徒の感想(一部)

### 【成果】

2年生ではトライやる・ウィークの時間を活用できたことで実際にフィールドワークをすることによって地域の危険箇所に対して他人事ではなく取り組めたと思う。

1年生では北淡震災記念公園の校外学習を通して、27年前の阪神淡路大震災を身近に感じられるようになった。それぞれがテーマを決め分担して新聞を作って、個別懇談中に展示することで保護者に伝え、代表者が防災学習で全校生徒へ向けて放送による発表を行ったことで学年内にとどまることなく、活動の内容を他学年にまで伝えることができた。

3年生も大がかりな取り組みはなかったが、1, 2年生の取り組みに興味深く聞き入っていた。

### 【感想(抜粋)】

- ・防災新聞を作るためにいろいろなことを学んだつもりだったけど、思ったよりもたくさんのが知れた。特に先輩方が作ったマップは何げなく通っている道にも実は危険なところがあるということを知ることができた。
- ・1年生の発表は地震の怖さがよくわかる新聞を作っていて、今から私たちが知っておかなければいけない、伝えていかなければならないということを知ることができる発表で、とても分かりやすかった。

# 育てよう高めよう防災意識～ボランティア委員会の活動～

神戸市立駒ヶ林中学校

## 1. 実践のねらい

本校は、阪神淡路大震災の際に避難所となった事をきっかけに生徒が自主的にボランティア活動を始めた。それ以降、生徒による「ボランティア委員会」が発足し、多くのボランティア活動に取り組んでいる。組織は有志で参加者を募るが委員会活動として位置づけられ、委員長を筆頭に執行委員が選出されている。学級委員との兼任が可能で、2021年度の加入率は39%（全校生徒208人中82名）である。現在の活動は、地域清掃活動・花の植え替え・地域行事への参加等が主であるが、ボランティア委員会の発足の精神を受け継ぎ、防災に関する取り組みとして年3回、地域で被災地への募金活動を行っている。

以上のような活動を通し、地域に根ざした学校として、今後数十年の間に高確率で発生すると予測されている南海トラフ地震に備え防災意識を高め、行動力や判断力を身に付けさせる事を目標にしている。それとともに各家庭・地域へと防災意識を伝えていくことができるよう、地域や関係団体とともに防災教育に継続的に取り組んでいく。

## 2. 実践の内容

### 【1】第1回 避難訓練（4月4日）：全学年

駒ヶ林中学校防災マニュアルに則って火災を想定した避難訓練を行う。

### 【2】こうべ医療ファンドへの募金活動とメッセージづくり

（6月11、12日）：ボランティア委員及び有志

新長田駅前2日間にわたり早朝に募金活動を行い、全校生徒でメッセージをつくり、こうべ医療ファンドへ持参する。

### 【3】赤十字募金活動（10月4～6日）：ボランティア委員及び有志

新長田駅前2日間にわたり早朝に募金活動を行う。

### 【4】赤い羽根共同募金活動（11月29日～12月1日）：ボランティア委員及び有志

新長田駅前3日間にわたり早朝に募金活動を行う。

### 【5】トライやるアクション（11月15日～19日）：第2学年

地域に貢献するための活動（マスクケースの作成・配布）をする。

### 【6】ICTを利用した防災学習（11月30日）：第1学年 ※校内研究授業

災害後の対応について、自らの問題として考える。タブレットを使い意見をまとめ発表する。

### 【7】校外学習(防災学習)（11月11日）：第1学年

わくわくオーケストラ終了後、神戸港震災メモリアルパーク及び慰霊と復興のモニュメント・1.17希望の灯りの見学。

### 【8】1.17希望の灯りろうそく作り及び震災講話（12月15日）：第1学年

震災の日にろうそくを立て鎮魂する意味について震災被災者の方から講話を聴き、1月17日に鉄人広場で開催される「1.17希望の灯り」に使用されるろうそくを作成する。

### 【9】1.17希望の灯りの紙灯籠作り（1月13日）：第1学年

1月17日に鉄人広場で開催される「1.17希望の灯り」に使用される紙灯籠を作成する。

### 【10】第2回 避難訓練及び震災講話と防災学習（1月17日）全学年

津波を想定した避難訓練を実施する。また、元二葉小学校教諭から震災後のボランティア委員会の発足と活動の大切さについての講話を聞き、各学年でそれぞれが防災学習を実施。

- ・1年生 「防災シミュレーション」 スカイメニューを使って
- ・2年生 「もしあなたなら…?」 スカイメニューを使って
- ・3年生 「共に生きる心をもって」 ST後 3年生は引き渡し訓練を実施。

### 【11】その他の取組及び今後の予定

- ・花の植え替え（5月10日）：2年ボランティア委員
- ・花の植え替え（11月26日）：1年ボランティア委員
- ・クリーン作戦(地域清掃活動)（2月予定）：ボランティア委員及び有志
- ・被災地募金活動（3月予定）：ボランティア委員及び有志

## 3. 実践の成果と課題

さまざまな角度から生徒自身の防災に対する意識を高め、身近な家族や地域にどのような準備と心掛けが必要となるかについて考えることができた。防災への意識を高めていたことで、先日12月3日の授業中に震度2の地震が発生した際には、生徒は揺れを感じ、教師の指示がなくとも自分たちの判断で机の下に隠れることができた。また被災地への支援やボランティア活動を通して、社会貢献する意識を身に付けた生徒も少なからず生まれたことは成果である。

課題としては、まず第一に指導する教師の側に震災を経験していない者が増えてきたことが挙げられる。今回そのような教師は、生徒と一緒に学ぶ姿勢で指導案を作成し、授業を試みることを行った。次に、避難訓練においては、実際の場面では避難経路が確保されているとは限らないので、地震により避難経路に障害物があることを想定して実施してみた。

また、今後ますます加速していくと予想される地域における防災への意識の低下を食い止めるためにも、従来の防災学習の教材から、ICTを利用した防災学習の制作へと積極的に進め、若い教師や今の生徒に合った教材の工夫の必要性を感じた。





## ①販売募金

### 地域と共に支援活動 防災意識の啓発

生徒会執行部を中心に DiReSt67 というチームを作り、東日本大震災直後から継続している「販売募金」は10年目を迎えた。これは地域の方々と共に、被災された地域へのお手伝い活動である。防災・支援に関わる様々な手作りグッズを紹介し販売している。年間20回以上(昨年度はコロナ禍で12回)神戸や明石の様々なイベントに参加している。

令和3年12月現在で協力頂いた累計人数は2700人以上。兵庫県以外に30都道府県の方、海外5か国の方の協力も得ている。そのお陰で10年で約180万円を支援できた。



## ②防災エフロンシアター

### 子どもたちへのアプローチ 防災エフロンシアター

防災エフロンシアターを上演し、子どもたちへの防災アプローチを行っている。演目は、地震編、火災編、水害編、熱中症編、インフルエンザ編、食中毒編、火山編の短辺7種と、歴史から学ぶ防災戦隊キャンドレンジャー、山を育てて街を守る、With COVID19の長辺3種がある。災害が起こるメカニズム、対処方法と備えについてなど、子どもたちと対話を交えて様々な角度から防災を考えるきっかけづくりをしている。子ども向けの内容だが、大人の方に興味深く見て頂くことも多い。



## ③防災ワークショップ

### 日常を防災に 防災を日常に ものづくり防災

広い意味で防災につながるモノの制作体験を提供する。備えとしての工夫、転用のアイデア等、身近に知識・体験となる。キャンドル制作、ソーラクッカー制作、ロボットハンド制作、お菓子ポシェットRU(おいしい防災塾とのコラボ)、間伐材加工の5種を展開し、ものづくりからの防災アプローチを行っている。特に間伐材加工とボードゲームは人気で、地域の子どもたちも大いに楽しんでいる。



## DiReSt67

### Disaster Relief Store = 災害救援商店

1995年に阪神・淡路大震災を経験した神戸の街は、被災地から未災地へと変わり行く。東北も熊本もいつかその日が来る。私達は多くの人と交流し、様々な形と方法で語り継ぐ。阪神・淡路大震災を未経験の私達だからこそ出来ることもある。先輩達から引き継いだ活動は、私達だけのものではなく地域の方々との共有のもの。継続し失敗もしながら未来へと進む。



# 防災マニュアルを基にした、知的障害部門、肢体不自由部門の

## 児童生徒の実態に応じた防災教育の実践

神戸市立灘さくら支援学校

### 実践のねらい

本校は神戸市の灘区の HAT 神戸に位置しており、今年度、灘の浜小学校とともに開校した学校である。本校は、海拔約 4m のところに位置し、大規模災害時には津波への対応も必要となり、垂直避難、水平避難も検討していく必要がある地域である。今年度、新設校として、旧青陽東養護学校、友生支援学校の防災マニュアルを参考にしながら、知的障害部門、肢体不自由部門の児童生徒が「ともに」安心して学校生活を送ることができるような防災マニュアルを作成してきた。まずは児童生徒の実態に応じた防災教育を普段の授業の中で計画的に取り組むことを目標とした。

#### 小学部

自分の好きなことや得意なことを見つけ、  
わくわく遊び、学ぶ児童を育てる

##### 知的障害部門

シェイクアウト訓練、垂直避難訓練、ライフ  
ジャケット着用体験

##### 肢体不自由部門

防災グッズの体験、非常持ち出し袋の確  
認、避難訓練

#### 中学部

さまざまな経験を通して自分と向き合い、  
自ら選択決定し、活動する生徒を育てる

##### 知的障害部門

避難経路の確認、防災グッズの作成、防災  
すごろく、シェイクアウト訓練、身の守り方

##### 肢体不自由部門

校内の防災設備探し、水平避難練習・避難  
行動について、非常持ち出し袋

ともに学び ともに育ち

自分らしく生きる

#### 高等部

社会に活かせる思考力や判断力を培い、  
個性を大切にする生徒を育てる

##### 肢体不自由部門

避難経路・避難器具の確認、身の守り方、  
シェイクアウト訓練、非常用バッグの作  
成、蓄電池の耐久使用時間実験

### 実践の成果と課題

学校として1月17日から21日までを防災週間とし、各学部、部門で防災に関する授業に取り組んだ。この1週間だけで、各学部のそれぞれの部門、類型別のグループでの取り組みなど、防災に関する8つの授業が実施された。この取り組みを基本の授業として、各学部や部門の児童生徒の実態に合わせて再度設定することで、幅広い内容の防災に関する授業に取り組むことができる。これからも児童生徒の実態に応じた普段から取り組める防災教育の充実を目指していきたい。

今後の課題として、本校だけで大規模災害時は対応できないこと考え、隣接する灘の浜小学校と連携した防災教育の取り組み、さらに、支援学校、小学校、地域との新しいコミュニティづくりなどの検討が必要である。